

# IUHW

The gazette of International University of Health and Welfare

vol. **61**  
June  
2005



## 特集 1

# 平成17年度入学式

## 薬学部、リハビリテーション学部開設 福岡県大川キャンパス開学

## 特集 2

# 新規着任教員紹介



### ◆新学科長就任挨拶

「自信を持って努力しよう」

放射線・情報科学科 学科長 佐々木 博

「“山籠もり”から生まれた

新プロジェクトが

医療経営管理学科を変える」

医療経営管理学科 学科長 高橋 泰



### ◆連載エッセイ「映画の心と眼」第5回

映画は体質の投影 客員教授 諏訪 淳

### Topics

ネットワーク基幹サーバ更新/スウェーデンにおける研修報告/本学卓球部男子団体・男子シングルスで優勝/ルドルフJ.フォルマー博士来日講演/小田原保健医療学部(仮称)校舎起工式/大学同窓会「マロニエ会」が奨学制度設立

表紙：上 「誓いのことば」を述べる百瀬あずさん  
(リハビリテーション学部理学療法学科)

下 「誓いのことば」を述べる落合勇人さん  
(保健学部言語聴覚学科)

# 平成十七年度入学式

大田原本校・四月六日 / 大川キャンパス・四月九日

## 薬学部 リハビリテーション学部開設 福岡県大川キャンパス開学

四月六日(水)、本校の那須アスリーナ・体育館で、平成十七年度国際医療福祉大学学部入学式並びに大学院入学式が行われた。本年度の本校での新入生は、保健学部六十五名、医療福祉学部二十七名、新設の薬学部一九二名、三学部合計で一〇八六名、大学院の新入生は一七九名であった。式には、新入生のほか、多数の来賓や保護者も出席した。

学長式辞(要旨)

国際医療福祉大学学長 谷 修一

今年、本学が開学十周年を迎え、また新たに薬学部と福岡県にリハビリテーション学部が開設された記念すべき年であり、本日入学した学部学生は、薬学部を含む一〇八六名、大学院生は一七九人ですが、多くの皆様が我が大学を選



谷 修一 学長

ばれ、保健医療福祉の専門職を目指すという選択をされたことに、教職員を代表して皆様を心から歓迎し、お祝い申し上げます。

また、中国、韓国、ケニアなど学部、大学院合わせて一八名の留学生の皆さんを歓迎します。

国際医療福祉大学は、医療や福祉の専門職の地位の向上と高度な教育、そして将来における優れた指導者を必要とする時代の要請に応えるという大きな夢をもつて、十年前に開学しました。一言で言えば、医療、福祉を専門に学び、研究し、そして専門職を教育する大学であります。学生の教育に関しては、開学以来、病める人も障害を持つ人も健康な人も、人間としての尊厳をお互いに認めあって生きる社会、つまり欧米でいう「ノーマライゼーション」の考え方を「共に生きる社会を築く」という理念を表し、これを全志科に共通する理想として掲げてまいりました。

本学の教育で重視していることの一つは、臨床教育です。そのために、大学構内及び周辺地区に医療福祉施設を整備しております。具体的には、大学のキャンパス内に、リハビリテーションセンター、言語聴覚センター、認知症(痴呆)老人のためのグループホームなどを持ち、また、隣の那須塩原市には、病院、老人福祉施設など、更に静岡県熱海市に附属熱海病院と東京都港区に附属三田病院があ

る福祉施設までの流れ、発達障害、身体障害、老年期障害など子どもから高齢者までの疾病・障害とライフサイクルの変化、医療・福祉サービスを支える多くの専門職種との連携、が理解できます。新設した薬学部におきましても、このような考え方に基つき、医療や福祉を理解した医療人としての薬剤師の養成を進めていきます。

入学式の後には、福田知事、長野順一・栃木県薬剤師会会長をはじめ多数の方々にご出席いただき、那須アスリーナ・レストランで薬学部開設祝賀会が開催された。



薬学部開設祝賀会の鏡開きでは、長野順一・栃木県薬剤師会会長(中央)に乾杯のご発声をお願いした。左から5人目より、渡辺喜美・衆議院議員、福田富一・栃木県知事。右から3人目が伊賀立二薬学部長。

学生の皆さんにとっては、教育の現場の中に医療や福祉の現場があることにより、障害者や病者と直接触れ合い、将来の医療福祉専門職へのより明確な動機付けとなり、「共に生きる社会」を身近なものに実感できます。本学の基礎教育及び臨床教育によって、疾病の治療を目的とする医療施設から生活支援を目的とする福祉施設までの流れ、発達障害、身体障害、老年期障害など子どもから高齢者までの疾病・障害とライフサイクルの変化、医療・福祉サービスを支える多くの専門職種との連携、が理解できます。

新設した薬学部におきましても、このような考え方に基つき、医療や福祉を理解した医療人としての薬剤師の養成を進めていきます。

学部に入学された新入生の皆さんはこれから四年間自分が目指す専門学科についての知識や技術を習得することは必須ですが、人と直に接し、病気や障害と向き合う仕事ですから、豊かな人間性を養うという意味からも、自分の専門以外のことに ついて幅広い教養をもつことも大切で、それと同時に、忘れてはいけなことは、人間の命を尊ぶこと、あるいは人を思いやることだと思えます。

皆さんには、これからの勉学の日々において、専門技術や学問の基礎を身に付けることも、常に命の尊さを思い、生きる幸せを感じる心を養っていただきたいと願っております。

## 福岡県大川キャンパスで初めての入学式

大川キャンパスの歴史が始まる

リハビリテーション学部(福岡県大川キャンパス)の開学式および平成十七年度入学式が、四月九日、新校舎で厳かにとり行われた。

第一期生として、理学療法学科五十一名、作業療法学科五十一名の合計一〇二名、また、大学院(福岡サテライトキャンパス)柳川サテライトキャンパス)には、合計一八名が入学した。

式典は、多数の来賓の方々や保護者など約四〇〇人が見守る中で行われた。高木邦格理事長、谷修一学長の式辞に続き、来賓としてご臨席いただいた中島正治・厚生労働省大臣官房審議官、江下均・大川市長、高久史磨・日本医学会会長、そして自見庄三



高久史磨・日本医学会会長より祝辞をいただいた。

平成十七年度学部入学生

「本校」	一〇八六名
保健学部	六二五名
看護学科	一一八名
理学療法学科	一〇二名
作業療法学科	一〇二名
言語聴覚学科	一〇三名
視機能療法学科	五二名
放射線・情報科学科	二二八名
医療福祉学部	二七九名
医療経営管理学科	一一〇名
医療福祉学科	一五九名
薬学部	一九二名
薬学科	一九二名
「大川キャンパス」	一〇二名
リハビリテーション学部	一〇二名
理学療法学科	五一一名
作業療法学科	五一一名
平成十七年度大学院入学生	
「本校」	一七九名
保健医療学専攻修士課程	九一名
医療福祉経営専攻修士課程	四九名
保健医療学専攻修士課程	三九名
「大川キャンパス」	二八名
保健医療学専攻修士課程	一九名
医療福祉経営専攻修士課程	七名
保健医療学専攻修士課程	二名

郎・衆議院議員よりそれぞれ祝辞をいただいた。

これを受けて第一期生を代表し、理学療法学科の百瀬あずさんが、「決意も新たに学業に励み、意義ある学生生活を送ります」と「誓いのことば」を述べた。また大学院生を代表し、医療福祉学研究科保健医療学専攻の小川修さんが「社会的意義のある研究を進め、広い視野に立つた保健医療福祉の向上を目指し勉学に努めます」と誓った。



「誓いのことば」を述べる百瀬あずさん。



開学・入学にあたり式辞を述べる高木邦格理事長。

## 開設 薬学部

北関東で初めて 六年制課程も視野に  
チーム医療、地域医療に貢献できる  
医療人としての薬剤師の養成を目指す

北関東で初めての薬学部が開設された。本学薬学部では、医療人としてチーム医療に貢献できる人間性、社会性、国際性豊かな薬剤師を養成することを目的としている。そのため教育研究体制には、医療薬学、環境・社会薬学、創薬科学の三つの系を置いている。医療薬学系では、チーム医療の担い手となる実践的な薬剤師を目指した教育を行う。環境・社会薬学系は薬学が社会とどのように関わるのかについて学ぶ。創薬科学系では、基礎薬学から発展した、医薬品の開発やゲノム創薬などを学ぶ。

また、臨床実習を重視する本学では、一年次では薬剤師の実務現場の見学実習を行い、二年次、三年次においては学内に設置した模擬病院薬局及び模擬保険薬局において学内臨床実習を行う。そして最終学年の四年次の学外臨床実習では、保険薬局実習を二週間、病院薬局実習を四週間行う。これらを通じて医療人としての自覚をもってもらい、薬剤師としての実践力を身につけることとなる。

このような構想で、特色あるカリキュラムをもつ薬学部の授業が、新校舎でいよいよスタートした。



病院薬剤師業務の実習を行う「病院薬局調剤室(散剤)」。



病院薬剤師業務の実習を行う「病院薬局調剤室(錠剤・鑑査)」。

### 薬学部開設記念祝賀会 伊賀立二・薬学部長挨拶(要旨)

この四月一日に学部長を拝命いたしました伊賀でございます。本日ご出席いただきましたご来賓の皆様方に厚くお礼申し上げます。おかげさまで、薬学部は、四月一日に無事開設の運びとなりました。これに際しましては、栃木県、大田原市、さらには関連するさまざまな方々、医師会、薬剤師会の皆様方の絶大なご尽力により、この北関東に初めて薬学部が開設できましたことをこの場を借りまして改めてお礼申し上げます。

本学の薬学部は、新しい薬学部として、医療というものに直接かかわる総合的な医療福祉を学ぶことができる環境の中での薬学部でございますので、医療の中で活躍できる、チーム医療に貢献できる薬剤師、そという専門家、これを養成していきたいと思っております。もちろん、薬学部出身者には多様なニーズがございます。医療の中で活躍のみならず、特に地元栃木県は医薬品の出荷額は全国六位と聞いております。医薬品産業の中での新しい創薬、そしてまた、流通に関するさまざまな

分野での活躍、また、創薬を通しての臨床試験等の分野での活躍という意味を含めまして、たいへんニーズの高い分野がございます。こういった分野はこれまで、とすれば薬学出身者があまり進出していなかった分野でございます。こうした多様なニーズに対応でき、また最先端の医療分野ではゲノム創薬に貢献できるような人材の養成も可能であると考えます。

また、このあと棟内見学の際、是非ご覧いただきたいのが、新しく完成しました薬学部棟の三階です。臨床実習の設備において学内施設としては、おそらく全国有数の規模でございます。ワンフロアほとんどすべてが臨床実習に対応し、通常の病院あるいは保険薬局以上の設備がここに用意されております。こういった素晴らしい教育環境の中で、本日新入生をお迎えすることができました。スタッフとともに一丸となって、新しい薬学の創成に向け、また全国的に活躍できる人材を養成できるようがんばっていききたいと思います。新しい薬学部でございますが、温かいご支援を賜ってすばらしい薬学部として育つことを祈念しまして私の挨拶にかえさせていただきます。



服薬指導実習を行う「病院薬局待合室」。



無菌製剤室  
(クリーンベンチでの輸液・注射剤の無菌調製)。

## 開設

## リハビリテーション学部

理学療法、作業療法の二学科を併せ持つ  
九月初の四年制私立大学 新校舎も完成  
第一期生一〇二名を迎えてスタート!

リハビリテーション学部(福岡県大川キャンパス)は、理学療法学科、作業療法学科の二学科を併せ持つ九州初の四年制私立大学として、福岡県大川市に開設された。医療福祉を担う新しい人材養成に取り組む大学の役割は大きい。

太田善郎学部長をはじめ、田原弘幸理学療法学科長、古川昭人作業療法学科長ら総勢二十八名の専任教員が中心となって、学生の教育にあたる。

四月二十二、二十三日には、学生、教職員も参加して佐賀・北山で一泊二日の宿泊研修が行われた。

最初はさこちなかつた学生同士だが、様々な活動を通して交流していくうちに、夜にはすっかり打ち解けた様子が見受けられた。

古川昭人学部長は同研修の閉会式で、「研修を機に、仲間作りの大事さを理解しました。本学へ入学した自分の目的意識の再確認をして欲しい」と学生たちに語りかけた。

ゴールデンウィークも終わり、いよいよ授業も本格化。教職員の熱い期待を受けた一期生の「これから」を見守りたい。新校舎の様子をレポートする。



福岡県大川キャンパスのリハビリテーション学部の校舎は、国道二〇八号線沿いの敷地に二棟が建設された。レンガ色を基調にした建物は、国道に面した三階建ての図書館・講堂棟と、四階建ての講義・実習棟から成る。

入学式をはじめとした行事等で使用される講堂は、最大で六〇〇名を収容でき、両脇にある大きな窓からは自然光がたっぷりと入るため、広い講堂にもかかわらず全体的にかなり明るくなっている。



「運動療法室」。身体機能を回復させる訓練を行う機械や用具を備えている。写真奥は、階段の昇降訓練を行う器具。



「ADL室(生活技術室)」。日常生活に必要な動作を訓練するため、和室(写真左)や洋室など実際の住居を再現している。

音響設備も充実しており、今後これらの施設設備をどのように活用していくのが課題といえる。一、二階が吹き抜けとなった図書館は、室内の中央に配置された幅広い階段が印象的だ。図書館も外光のために明るく、気軽に立ち寄りそうな雰囲気となっている。

図書館・講堂棟(上)と講義・実習棟。

講義・実習棟は、中央に位置する階段を境にして南北に分かれ、各フロアごとに色分けしている。各教室のドアや表示板がポップな色で配色されているため、館内全体が若々しいイメージで明るい雰囲気となっている。

また、色分けのおかげで、どこに何の教室があるのか一目瞭然というわかりやすい作りとなった。

実習室は、広々とした「運動療法室」や「ADL室(生活技術室)」などがあり、充実した実習設備を整えている。

今年度の入学式の際には中庭の桜が満開になり、華やかさを演出。敷地内に少しでも、ホッとできる空間を作りたいという配慮から、なるべく多くの植栽を取り入れた。学生ラウンジ横には、芝生のある中庭があり、ここではキャッチボールをしたり、昼ごはんを食べる学生の姿も見られ、ちょっとした「和み」の広場となっている。

それぞれの学生達が夢を抱きながら新しい学生生活をスタートさせたキャンパス。思い思いのスタイルで充実した学生生活を送って欲しいと願うばかりだ。



自信を持って努力しよう

放射線・情報科学科 学科長 佐々木 博



この四月から、飯沼先生の後任として放射線・情報科学科の学科長を務めることになった。まず考えていることは、本学のそして本学科の学生に自信を持ってもらいたいということである。

最近聞いたことであるが、入学してきた学生の調査を行ってみると、殆どどんな大学でも多くの学生が不本意入学者、つまり、本当は他の大学あるいは他の学部・学科に行きたかったのだが、やむをえず今の大学、今の学部・学科にいるという意識を持っているのだそうである。本学の場合はどうであろうか。本学は全国でも例のない医療福祉系総合大学である。そして私自身が本学に入職して驚いたのだが、教育スタッフにはそうそうたるメンバーが並び、その充実ぶりは目を見張るほどである。加えて、大学本体の施設の充実ぶりはもとより、附属病院、関連病院、関連施設など、これほど医療福祉系技術者教育に適した環境を整えて

いる大学は他にない。本学の学生には、医療福祉系技術者を目指すならこの上ない環境にいるのだということをよく理解し、本学にいることに自信を持ってもらいたい。

また、目指している職業は、苦しんでいる人たち、不安を持っている人たちに直接関わって、そのような人たちのために働ける仕事である。そのような仕事への誇りと、そのために今努力している自分に自信を持ってもらいたい。一方で、恵まれた環境にいるからよく育つとは限らない。環境に安住し、自らの研鑽の努力を怠れば折角の環境も有効にならずに終わってしまう。それはわれわれ教職員も同じであろう。教職員にもこの環境を十二分に生かす努力を続けることが求められているのだと思う。

もう一つ考えていることは学科としての目標についてである。こうありたいという姿を思い描いてみると、診療放射線技師を目指す受験生は、第一に国際医療福祉大学の放射線・情報科学科に入りたいと思うようになること、卒業して仕事に就いた学生が、国際医療福祉大学の放射線・情報科学科で勉強して本当によかったと思うようになること、数多くの病院・施設が、まず第一に国際医療福祉大学の放射線・情報科学科の卒業生を採用したいと思うようになること、の三つである。

現状はまだそういうレベルにはなっていないであろうが、恵まれた環境を活かし、この目標の姿に向かって、学生・教職員が一緒になって努力をし続ける学科でありたいと思う。

「山籠り」から生まれた新プロジェクトが医療経営管理学科を変える

医療経営管理学科 学科長 高橋 泰



私は大きなプロジェクトを立ち上げるとき、これまで何度もメンバーを連れて山籠りを行ってきた。昨年末学科長の拜命を受けたときにまず考えたことは、「ともかく山へ行こう」である。

このような次第で、新学科長から出た最初の指令が「山籠り」である。三月十日の夕刻に医療経営管理学科の教員たちは那須山中のコーテージに集合、教員たちの山籠り合宿が始まった。最初はどのような不安もあったが、学科の将来に関する議論が始まると参加された教員からの話は尽きず、結局深夜三時過ぎまで一人の脱落者も無く七時間以上に渡る熱い教育議論が交わされた。

この間に、(一)平成十八年度から医療福祉経営コース、診療情報管理コース、医療秘書コースという三つのコースを立ち上げること、(二)医療経営管理学科に焦点を当てた学生募集のための学科長による栃木キャラバンを実施、同時に高校の進路指導担当教員向けのニュースレタ

ーを発行すること、(三)ゆとり教育を受けた最初の学年である新一年生の基礎力アップを目指したレポート・ライティングという新規授業の内容変更、(四)就職強化の種々のイベント、目玉として三四年生の就職意欲を高めるために全員参加の就職相談会体験バスツアーを始めること、(五)学校に出でこない学生、就職の意欲の希薄な学生を早期にピックアップし、担任以外の複数の教員が話を聴き、対策を考える会を始めることなど、多くの新規プロジェクトの立ち上げやその具体的な内容が決まった。

また一年から四年の縦の連携を強める目的で私が、火曜日の六時間目に「学科共通授業」を行うことの学科としての承認をいただいた。この授業は、DPCに関する最新の情報を隔週で教える授業であり、授業と授業の間の週に試験を行う。各学年三〜四人からなる全学年で十五人前後のグループを編成し、四年生は勉強会を主催して一〜三年生を教える。テストの成績はグループの連帯責任であり、グループの平均点が各人に割り振られる。これらの新規プロジェクトの八割程度を実現できれば、医療経営管理学科は、周囲の皆様が「確かに変わった」と感じただけの程度の変化が現れるだろう。正直どこまでやれるかわからないが、当面は従来の業務の他に、上記の新規プロジェクトを一つひとつ確実に実行していきたい。

紙面の都合上研修内容をすべて伝えることはできないが、国内のみならず海外にも目を向け、国際的な視野をもって研究・教育活動を行うことの大切さをこの研修により改めて考えることができた。最後に本研修には本学大学院長・開原成允先生に多大なるご尽力をいただいた。ここに記して謝意を表す。(理学療法学科 勝平純司)

トピックス

Date:February 26 ~ 3/16

ネットワーク基幹サーバ更新

二月六日から三月十六日にかけて、国際医療福祉大学大田原本校ネットワーク基幹サーバ群の老朽化ならびに保守終了に伴うシステム更新を実施した。平成九年五月の運用開始から今回で二度目の更新となる。

今回の構築に当たっては、迅速な障害時対応を可能とするための管理コスト削減。薬学部(大田原本校)、リハビリテーション学部(福岡県大川キャンパス)、附属三田病院(東京都港区)の開設によるキャパシティの強化、また、かねてより要望が多かったSMTPサーバの学外ネットワークからの利用等、各種の要求に応えるべくシステム選定をおこなった。

まずソフトウェア面、ファイアウォールをFirewall-1からNOKIA IP 380に切り替えたことで、増加するトラフィックへの対応と堅牢性・安定性の向上を見込んでいる。ゲートウェイウイルス対策はInterScan VirusWallからInterScan Messaging Security Suite (IMSS)へ切り替えた。本システムによりマスメーリング(メール大量送信)型ウイルスへの対応強化はもとより、スパムメールのフィルタリングにも対応した。メールサーバはPost Office3.8に更新しSMTP

認証に対応した。Proxy (cache) サーバは squid に変わって Blue Coat SG800を導入、ハードウェアキャッシュによる高速・安定稼働が期待できる。

ハードウェア面ではPentium III 500MHz機からリックマンV型 Xeon2.4 3.2GHz / Calson2GBメモリに更新し高速・省スペース化した。また、本学の全幹線スイッチのCPSにはネットワークマネジメントカードを装着し、遠隔監視・操作が可能となった。バックアップ体制の強化としては、大容量NASへの定期的なイメージバックアップを実施するようスケジュールリングした。

新サーバの稼動によって強化されたサービスは、検証のち順次マニュアル作成の予定である。ネットワーク利用規定遵守のうえ、有効に利用されたい。(情報システム室 郡司秀和)

トピックス

Date:February 28 ~ 3/9

スウェーデンにおける研修報告

日本救急医療財団の実施する日本人研究者海外派遣事業の助成を受けて、平成十七年二月八日から三月九日までの一カ月間、スウェーデンにて研修を行ったので、以下にその内容を報告する。本研修はスウェーデン国内、主にストックホルムにおける研究施設および医療福祉施設を訪問し、その現状を調査するとともに、それらの施設で働く研究者などと交流を行うことを目的として行われた。

スウェーデンは約四十五万平方キロメートル

ルという日本の約一・二倍の国土を持ち、人口は約九〇〇万人である。緯度はシベリアとほぼ同じであるが、海流の影響で緯度の割には温暖である。また、消費税をはじめとしたすべての税金の税率が非常に高率であるが豊富な税収により高齢者、障害者を対象とした医療福祉サービスは手厚く、ほとんどのサービスを無料かわずかな負担で受けることができる。上記のようにスウェーデンは高負担、高福祉の福祉国家であり、医療福祉体制およびその分野の研究などで学ぶべき点が多く、今回の研修先となった。

研修期間中の主な滞在場所は、首都ストックホルムにあるカロリンスカ研究所であった。カロリンスカ研究所はノーベル賞の受賞者を決定する研究所として有名であるが、研究施設の他に医師と看護師、理学療法士、作業療法士を養成する大学としての機能も持つ。本研修では主にカロリンスカ研究所理学療法学科と作業療法学科に滞在し、大学教員とディスカッションを行い、大学から派遣されるかたちで外部のさまざまな研究施設と医療福祉施設を訪問した。滞在了たカロリンスカ研究所および訪問したそれぞれの施設では、研究の質の高さ、医療福祉サービスの充実ぶりなど驚きの毎日であったが、特に福祉用具に対する取り組みについて感銘を受けた。スウェーデンには「F&O」社をはじめとする世界的にも有名な福祉用具の会社があり、研究者は積極的に福祉用具の開発に取り組んでいる。また、福祉用具の支給は貸与により原則無料で行われており、その場合は専門の教育を受けた作業療法士、理学療法士などが行っているため、質の高い福祉用具が必要とする人々に確実かつ適切に支給されていた。

紙面の都合上研修内容をすべて伝えることはできないが、国内のみならず海外にも目を向け、国際的な視野をもって研究・教育活動を行うことの大切さをこの研修により改めて考えることができた。最後に本研修には本学大学院長・開原成允先生に多大なるご尽力をいただいた。ここに記して謝意を表す。(理学療法学科 勝平純司)



カロリンスカ研究所の研究者と共に(右・筆者)

トピックス Date:March 3/23 ~ 25 本学卓球部男子団体、男子シングルスで優勝!

第五十六回東日本医歯薬学生卓球大会(二月二十三日〜二十五日、福島県郡山市立西部体育館)で、本学卓球部は男子団体で優勝、男子シングルスで優勝など輝かしい成績を挙げた。約三十校が参加した同大会の男子団体で、本学Aチームが見事優勝を果たした。男子シングルスでは小森充人選手(医療経営管理学科二年)が優勝、男子ダブルスでも小森・佐久間ペアが準優勝など好成績を収めた。入賞した学生は、この夏、福岡県で行われる全国大会への出場資格を得たことになる。(学生課 栗田淑夫)

大田原の桜もそろそろ見頃という四月十二日、元ドイツ連邦保健省大臣官房介護保険部長のルドルフ・J・フォルマー博士を本学にお招きし、「ドイツにおける介護保険制度の導入とその経過ならびに今後の検討課題」をテーマとする公開講演会が開催された。当日は医療経営管理学科の学生を中心に他学科の学生、本学教職員、近隣の介護関連職種の方々などが多数参加し、熱心にフォルマー先生の講演に耳を傾けた。まず講演に先立ち、谷学長より歓迎の辞ならびにフォルマー先生の略歴が紹介された。その後、フォルマー先生から日本の五年前に導入したドイツの介護保険制度について、導入の経緯や経過、今後の課題について丁寧な説明がなされると、聴衆の多くは我が国の制度との類似点や相違点について興味を喚起されたのか、熱心にメモをとる姿が会場のおちろちろで見られた。特に講演の中で触れられた、若年障害者も介護保険の対象としている点、現金給付を広く認めている点、保険料の徴収範囲を原則として労働者全体としている点、子供の有無で保険料率に差をつけている点などは、現在の我が国の介護保険制度との大きな差であり、議論が進行中の我が国の介護保険制度の改革に対しても、きわめて示唆的な内容であった。またフォルマー博士は、ドイツの介護保険制度を「日本の制度を新幹線とすれば、ドイツの



ルドルフ・J・フォルマー博士(元ドイツ連邦保健省大臣官房介護保険部長)

制度は一九世紀の遺物のような鉄道である」とやや過剰に謙遜された上で、我が国における介護予防への取り組みやケアマネジャーの存在などを、とりわけ高く評価されている点が印象的であった。講演後の質疑応答でも、現金給付について質問が集中するなど、我が国との制度上の差異とその効果について聴衆の多くが深い関心を持ったことが伺われた。質疑応答の最後では、フォルマー先生が「是非、女子学生からも質問をお受けしたい」と発言し、会場を笑わせるなど、全体で八十分の講演会は、終始和やかな雰囲気で行われた。

介護問題への対処という共通の社会的目標において制度を導入しながら、両国の制度の比較については普段、正確な理解に達する機会がほとんどないのが現状である。ドイツ介護保険制度の第一人者ともいべきフォルマー博士の今回の講演は、改めて今後の介護保険制度の理解と在り方について参加者一人ひとりが考える契機となったように思われる。

(医療経営管理学科講師 菅原琢磨)

来年四月に開設予定の「小田原保健医療学部」(仮称)校舎の起工・安全祈願祭が、四月十四日、小田原市城山の建設予定地で行われた。

式典には、高木邦格理事長、谷修一学長ら本学関係者のほか、小澤良明小田原市長、設計・施工を担当するピーエス三菱の関係者など七十名が出席した。神事では、鎌入れを小澤市長、鍬入れを高木理事長と谷学長、鋤入れをピーエス三菱の神田徹社長がそれぞれ行い、工事の安全を祈願した。

新校舎は、JR小田原駅に隣接するJR東日本社員寮の跡地約三二四〇㎡に、鉄筋八階建て、延べ床面積一万二九九五㎡の規模で建設される。講義室や実習室のほか、体育館、図書室、大学院サテライトキャンパスなどで構成され、来年二月末に竣工が予定されている。校舎の脇を電車が走る、この「駅前大学」は、交通至便な都市型キャンパスを目指している。小田原の学部は、附属熱海病院をはじめ



鍬入れをする高木邦格・理事長(左)と谷修一・学長

めとする関連医療福祉施設での臨床実習を重視しながら、「チーム医療」に貢献し、地域医療をモリドできるコマディカルを育成する。また、神奈川県西部における専門職の養成とリハビリテーション医療の向上も視野に入れていく。入学定員は看護学科五〇名、理学療法学科四〇名、作業療法学科四〇名の計一三〇名、収容定員は五二〇名を予定。また、大学院の小田原サテライトキャンパスを併設し、主に社会人を対象に生涯学習の場も提供していく。

式典では、高木理事長が「地域の皆様とともに日本の医療福祉の向上に貢献できるよう、立派な大学づくりに努めてまいります」と挨拶。小澤市長は「健康と教育を重要施策に掲げている小田原市にとって、国際医療福祉大学の進出は大変喜ばしい。大学関係者の方々や連携し、新しい文化を共に創り上げていきたい」と祝辞を述べた。式典後に市内で行われた直会では、小田原商工会議所の原義明会頭が「若者が増えることで、まちが活性化すると本学への期待を寄せるなど、地元の方々からも厚い支援が寄せられた。

これからは、田中富久子開設準備委員長(前横浜市立大学医学部長)を中心に、開設準備が本格化する。七月末までに文部科学省への学部設置届出及び収容定員増の学則変更申請を行い、九月末には届出が受理され、変更申請が認可される運びとなる。

広大な大田原本校、九州に新風を吹き込んだ大川キャンパスに続き、来春、小田原に本学三つ目のキャンパスが誕生する。(東京事務所出版広報室 村田るり)

国際医療福祉大学同窓会「マロニエ会」では、かねてより準備を進めてまいりました奨学制度を、今年度、設立することとなりました。

「マロニエ会」で行う奨学制度は、海外への留学や海外での研究・活動を目指す正会員(卒業生)を対象に奨学する制度です。奨学制度は二種類のものをつくりました。短期海外研修奨学制度と海外研修奨学制度です。

短期海外研修奨学制度は、海外での学会参加、短期留学、海外での短期間の保健プログラムへの参加など、語学留学を含まない六カ月以内の海外学習をサポートするものです。海外研修奨学制度は、海外の学術機関や研究機関、団体に属し、長期にわたり研修、留学、活動を行う方に対して、一年単位で奨学をするものです。

どちらの制度も、奨学金は貸与ではなく給付による形式で行いますので、返済はしなくてよいものです。制度設立初年度の今年度は、短期海外研修奨学制度のみの設立となりました。短期海外研修奨学制度は、一件の給付限度額を四〇万円としており、給付件数は若干名としています。

募集要項と申請書などの必要書類は、国際医療福祉大学学生課窓口、東京サテライトキャンパス窓口で配布しているほか、「マロニエ会」事務局へ電話連絡など

により、お問い合わせいただければ郵送にて配布もいたします。本年度は、短期海外研修奨学学生の募集を二回行います。卒業生の方には既にダイレクトメールにてご案内しておりますが、第一回募集の申請締め切りは六月三十日です。第二回募集の研修対象期間は、研修等への出発予定が九月一日から来年三月三十一日までのものです。また、第二回募集は十二月三十一日締め切り予定で、研修対象期間は、研修等への出発予定が来年四月一日から来年八月三十一日までのものです。詳細は「マロニエ会」ホームページをご確認いただくか、「マロニエ会」事務局までご連絡ください。

(大学同窓会「マロニエ会」理事・奨学金制度委員長 吐師 秀典)

**短期海外研修奨学生募集**

第1回 平成17年9月1日～平成18年3月31日  
【申請締切】平成17年6月30日

第2回 平成18年4月1日～平成18年8月31日  
【申請締切】平成17年12月31日(予定)

【申し込み・問合せ先】  
「マロニエ会」事務局  
0287(24)3055  
「マロニエ会」ホームページ  
<http://www.maronie.uhw.ac.jp/>

映画の心と眼  
第五回

映画は体質の投影

映画作品を創り出す根源の一つは、つくり手自身の「体質」そのものが大きく関わっている。体質は、生活信条の持ち方に左右されながら、後天的な感性として形づくられてくる。その為には、例えば作品づくりを志す初期時代に構成のなかで「起承転結」とか「喜怒哀楽」を備えた表現など思考せず、ほとぼは「無造作」の意識が重要である。

現在は、他人に無関心を装いながら、他人の眼を気にし過ぎている。これでは、つくり手にとつての思想性を忘失していることになる。即ち、「評価」を得るために自身の体質にないものまでを付加して表面を繕う心が働く。他人に感動してもらおうとする下心があるからだ。そこに素晴らしい創作が生まれるわけがない。また、作品には「賞」が付くまとう。受賞すると社会的或いは仲間の評価を得ることも事実であるが、他人がその価値を見出し出してくれに過ぎない。「自分自身を評価する体質」こそが必要なのである。

私は、一九七〇年大阪万博のタカラレコーテリオンで映画「地獄」を発表した。その時以来、作品の全体をつらぬく内的基本イメージを絵画で表現して「志向体質」を確認している。

この行動は、作品づくりの発想を心に確める行為であるが、その絵画はあくまでも映画への裏方的役割である。撮影中や完成作業の時点で方向性に迷が来ると、絵画を見て指針をねりなおしていく。つまり、映画と異なった分野の助力で、内容がふくらみ豊かになる実感がある。絵画に限らず、多くの表現手段と共に進むことは、創作上の支援的存在として大切である。独自の志向とその結果を評価できる「自己体質」があればこそ、心をほつつかさせる映画作品を生むことができるのだ。



大阪万博映画「地獄」の作品を生み出す裏方的役割を果たした自作絵画の一例。

国際医療福祉大学附属三田病院

院長就任「挨拶」

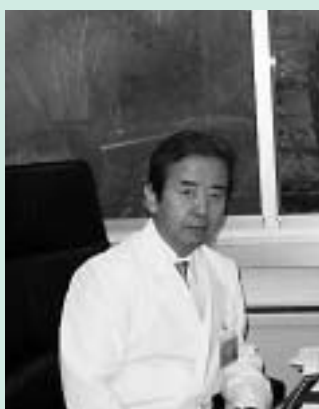
臨床研修医制度について

国際医療福祉大学附属三田病院 院長 田中靖彦

このたび四月十一日付で附属三田病院の院長を拝命いたしました。自己紹介をかねて、新医師臨床研修制度について述べたいと思います。

インターン闘争後、眼科に入院

医学部を昭和四十一年に卒業しましたが、インターン制度改革運動の真っ只中、すぐの国家試験をボイコットしました。私たちの学年は、全国で九〇%以上の卒業生がボイコットしました。講義などをボイコット(サボって)して熱心にクラス討論会を開きました。すると必ずクラスの中にアジテーターがいて、盛んに痛る演説をして純粋な青年の心を揺り動かす、ストライキなどとおよそ学生には資格のない(？)闘争作戦をとったり、国会にまでデモ行進をしたりしました。学校によっては大学側が圧力をかけてきて処罰しようとしたりするものだから、それを撤回させるべく学部長を部屋に軟禁状態にしたり、かなり青春のエネルギーをつぎ込みました。インターンが終了してからの国家試験受験でしたので、この一年間は医者でもなく学生でもなく、身分が中途半端で、さりとて満足な教育体制もなく、もちろん無給、医者助手とい



田中靖彦院長

つた格好で大学病院でこき使われていました。しかし反面、好きな施設で先輩のお世話をいただき、好きなことをやってもらえたい(？)という「自主臨床実習」ができたとも言えます。私は結局半年遅れの国家試験を受けました。すぐに大学の眼科に入院したかったのですが、臨床実習のグループの代表をしていた関係で活動家と見られたのでしようが、当時の眼科教授は、その頃眼科に入院する絶対数が少なく困っていたにもかかわらず、「入院試験が悪いので、入局させられない。それでも眼科をやりたいのなら、関連病院の眼科を紹介する。」と医局長から申し渡されました。しかし、自分の希望の教室に入れないということ、インターン闘争に対する「処分」であるということになります。当時、一連の運動の収束にあたり、「処分はしない」との大学病院を含む全国の研修医受け入れ施設との申し合わせができており、「これは後でわかったことですが、」ほかの病院にも受け入れてもらえないことが判明しました。その時は途方にくれましたが、そこに「白馬の騎士」があらわれて、眼科に篠永正道先生と高梨吉裕先生が着任され、診療をスタートした。

科教授と掛け合ってください、何とか入局はさせてもらいました。当然、間もなく関連病院へ出張を申し付けられました。東京医療センターの臨床研修

それから三十年が経って、ようやく新しい臨床研修医制度が平成十六年四月スタートしたのです。思いも一人入ったところですが、この間にも改革が進まなかったことは、もちろん厚生労働省の責任もあるでしょうが、最大の理由は、臨床研修医制度(旧)に対して、大学も学生もなんと不甲斐なかつたことか。斯く言う私も爾来ずっと大学にあり、入局してくる研修医も無給のまま、研修医制度の改善も考えずあたりまえとしてきました。言い訳ではありませんが、研修医のみならず、無給医という医師が大学病院には当たり前存在していた時代で、そういった過酷な条件下で、医局制度は成り立ってきたのです。

しかし何の因果か、私に罪滅ぼしの機会をあててくれたのでしょうか。私がこの三月まで勤めておりました国立病院機構東京医療センターは、それまでも総合内科、救命救急センターなどを看板に、スーパーテート方式をとる研修指定医療施設として実績を積み上げてきた数少ない総合病院のひとつで、新しい研修医制度にもほとんど変更することなくそのまま移行できる状況でした。従いまして研修医マッチングにおきまして、第一回目、第二回目(本年度研修医)とも定員二十五名に対し、十倍以上の応募者があり、全国一激戦の研修施設となりました。「アルバイトせず、医師としての資質

を涵養し、プライマリケアを実践すること」とされた中で一番困ったのが、「アルバイトせず」です。月三十万円を出すことに厚生労働省から補助金が出るかはかり思っていたところ、三分の一しかでないことになり、あとは自施設の負担となったこと、指導医の不足でした。そこで、少々持ち出しでも、施設として重要課題のひとつにこの研修医教育をあげ、幹部や本部を説得し、宿舎を含め予算を確保しました。また一週間の指導者講習会を企画し、昨年は一回、それぞれ二十五人ずつ、国立病院機構の施設の医師を対象に開催し、研修指導医の養成にも努めました。

三田病院も指定施設認定を

さて問題はこれからです。来年三月、二年間で最初の研修医が卒業しますと、研修施設としての評価が下されます。果たしていい研修ができたか、常に施設としての自己評価とともに外部評価を受けながら、よりよい研修施設として育ててゆかねばなりません。しかし、巷では「医師不足に拍車をかける悪い制度である」と言う方もおられますが、卒業生の絶対数に変わりがない以上、このはじめの二年間が正念場で、その後如何にして地域に分散させて「医師過疎地帯」をなくしてゆか、医師のモチベーションを高めるために「工夫も」「工夫も必要である」とかと思えます。

ここ三田病院も可及的速やかに指定施設認定をとり、医師臨床研修に積極的に参加してまいりたいと思っております。皆様のご理解とご支援をお願いいたします。

国際医療福祉大学附属熱海病院

Information Area

平成十七年度入社式・辞令交付式 開催 四月二日、平成十七年度附属熱海病院入社式・辞令交付式が熱海後楽園ホテルで行われた。

附属熱海病院ではこの四月より、医師(研修医を含む)二十二名、看護師二十五名、薬剤師他二十三名の計七十名が新たに入職した。式では高木邦格・学校法人国際医療福祉大学理事長から歓迎の挨拶があり、新入職員を代表して看護師の西奈津子さんが力強く奮いの言葉を述べた。式典の緊張した雰囲気も、そのあとの懇親会では和らぎ、交流を深めた。



入社式では高木邦格理事長が歓迎の挨拶を述べた。

四月より脳神経外科の診療を開始

附属熱海病院では、四月より脳神経外科に篠永正道先生と高梨吉裕先生が着任され、診療をスタートした。

手足のしびれ・脱力、物忘れ、頭痛、めまいなどさまざまな症状の脳・脊髄疾患に幅広く対応し、的確な診断と治療で診療を行う。また、現在は無症状で将来的に災いをもたらす可能性のある、隠れくも膜下出血、隠れ脳梗塞などの早期診断を行ない、予防的な治療にも力を入れていく。頭かな？脳かな？と思ったら迷わず早いうちにお気軽にご相談ください。なお、七月からの新病院スタートではさらに診療科目の増設を予定している。

第十回DMポータの集い 開催

平成十七年四月二十五日(月) 当院において糖尿病の患者様の集いである熱海DMポータが開催された。今回の内容は内科の都島基夫教授より「糖尿病はなぜ治療しなければならぬのか」、看護部の平野澄子部長より「フットケアについて」の講話があり、参加された患者様は熱心に耳を傾けておられた。今後とも当院ではDMポータに注力する予定である。

第七回公開講座 開催

平成十七年五月十五日(日)に熱海市観光会館にて七回目の公開講座が開催された。今回のテーマは「がんの予防と治療」で演題は次のとおり。

- 司会 北谷知己(副院長・乳腺外科)
イントロ それぞれのがんの特色
北村 創教授(病理学)
1 肺癌から身を守るには

外来診療担当医師一覧表

Table with columns for Day, Time, and Doctor Name. Includes departments like Internal Medicine, Surgery, Pediatrics, etc.

中村治彦教授(副院長・呼吸器外科)
2 胃がんは治る? 早期発見と治療
川口 実教授(副院長・内科)
3 大腸がん早期発見のための心掛け
岩崎博幸教授(外科)
4 抗がん剤のしくみと実際に使用されるまで
鈴木 肇薬劑師(薬劑室)
公開講座には毎回多くの市民の皆様がお集まりになり、好評をいただいている。今後も皆様と積極的に交流していきたい。(附属熱海病院 総務課)

- 1 第1・3・5金曜日の午前診療致します。
2 皮膚科午後診療は、原則予約制です。
3 乳児健診は金曜日の午後2時~午後3時30分、予防接種は火曜日の午後2時~午後3時30分に行っています。(予約制)土曜日午前の1診は肝臓・消化器外来となります。
4 耳鼻咽喉科外来の月曜日午後は補聴器外来、木曜日午後はめまい・難聴外来、金曜日午後はめまい外来で予約制です。
5 婦人科の水曜日と木曜日の午後は原則予約制です。

【受診のご案内】
受付時間 診療時間
午前の部 8:30~12:00 9:00~13:00
午後の部 13:00~16:30 14:00~17:00
診察日月曜日~土曜日 但し日曜日、祝祭日は休診日
電話番号 0557(81)9171 国際医療福祉大学附属熱海病院
急患の場合は随時受け付けておりますので、ご相談下さい。

### 山王病院

#### ピアノコンサート

山王病院の玄関を入るとすぐに目を引くのが、一階ロビー中央にある「ペーゼンドルファー」のピアノである。一階から六階までの吹き抜けの空間に響き渡る調べは、音楽の世界にいる演奏家をも魅了し、奏者から奏者に輪を広げ、いつの間にか月〜二回の演奏会が恒例となった。

当初はピアノの独奏であったが、その後は、声楽、ヴァイオリン、フルート、ヴィオラ、琴、琵琶と、バラエティに富んだ演奏会になっている。演奏会は、「昼のコンサート」と「夕べのコンサート」に分けて開催される。昼のコンサートは十二時〜十三時の一時間で、外来患者様に配慮し、バックグラウンド音楽としての構成となる。奏者の方には音量を控えていただくと共に、やわらかい静かな曲目を選んでいただいている。夕べのコンサートは十八時半〜十九時半の間で、本来の演奏会の形をとっている。はじまりは三年前のクリスマスコンサートだった。それがきっかけとなって、現在、当院のクリスマスコンサートは定番となっている。

本年二月、異色の演奏会が開催された。「ドクターのトークショー&ピアノ演奏」と題して、CS衛星放送テレビ・医療福祉チャンネル774の企画のもと、医師、職員の演奏に加え、呼吸器疾患、中でもインフルエンザや風邪予防についての医



ピアノコンサートで演奏する鷲崎一成先生（神経内科部長）

師のトークもあり、患者様の大喝采をあげた。昔から、医師と音楽の結びつきが強いことはさまざまな場面で取り上げられているが、山王病院の医師にもピアノの達人が多い。特に医師の演奏では、普段とは異なったドクターの顔を見ることができ、患者様の感動はひとしおであった。また四月には、浅野ドクターの紹介で臍帯血バンクの協力者でもあるピアノリストの演奏会を開催した。六月には、音楽療法を実践しているピアノリストの演奏会を予定している。

ある時、リハビリ室から連絡を受けた。ある入院患者様がピアノコンサートを大変楽しみにしていらして、ピアノ演奏を聴くという目的のためにリハビリのモチベーションが上がり、効果的だということだった。また、外来患者様にもコンサートのファンが増え、とても身近な演奏会で、肩をはずしに足を運べるのが嬉しい。コンサートが生活の楽しみに加わった」という声や、ご意見箱には「病院でコンサートが開催されるのはすばらしいことです。特に山王病院はホテルのよ

**「新緑の夕べピアノコンサート」のご案内**

平成17年4月22日(金)18:30~19:30  
山王病院 1階ロビー

Program

- ショーベルト 序曲 作品90 第3番、第2番
- シューマン 「子爵の戯曲」より トロイメライ ほか
- ブラームス インターメッツォ 作品118 第1番、第2番
- ショパン 子守歌、幻想即興曲

**「ドクターのトークショーとピアノ演奏」のご案内**

Annua Concert  
ドクターのトークショー & ピアノ演奏  
平成17年2月4日(金)18:30~19:30  
山王病院 1階ロビー

プログラム

1. ピアノ演奏
  - 【ムカゴキ】作曲より「プレリュード」ドビュシー
  - 【オランダ】作曲より「夜曲」ショパン
  - 【メロデー】作曲より「私のソナタ」モーツァルト
  - 【ワルツ】作曲より「ワルツ」ショパン
  - 【ワルツ】作曲より「ワルツ」ショパン
  - 【ワルツ】作曲より「ワルツ」ショパン
2. ドクターのトークショー&ピアノ演奏
  - 東京歯科大学 山王病院 山王病院 山王病院
  - 山王病院 山王病院 山王病院
  - 山王病院 山王病院 山王病院

### 国際医療福祉リハビリテーションセンター

中越地震災害における国際医療福祉大学学生のボランティア活動報告

国際医療福祉リハビリテーションセンター・I.U.H.W.ボランティアセンター  
ボランティアコーディネーター 二見令子

中越地震が起きた直後、国際医療福祉大学の学生たちはすぐに動いた。それは感動である。一口一〇〇円の募金活動が展開され、集まった金額が、全学生が参加してくれたことを物語っている。一方、大学のボランティア委員会や、当ボランティアセンターでも支援金等の呼びかけを行い、多くの協力を得た。

その動きの中で、現地での支援活動（災害ボランティア）に行きたいという相談を数名の学生から受けた。メンバーの中に新潟県出身の学生がいて、気持ちは痛いほど理解できた。しかし、学生のみで現地入りするには、あまりにもリスクが大きすぎる。そこで、地震直後に立ち上げられた「オールとちぎ」との連携の中で行くことを納得してもらった。「オールとちぎ」は、栃木県全域に呼びかけ、この中越地震災害支援のために急遽立ち上げられた組織である。すぐに現地にキャンプをはり、驚くべき速さで支援体制が進められていた。災害地におけるボランティア活動は、「ボランティアしたい」だけで行つて成り立つものではない。現地の人々との接し方、活動の注意点などのオリエンテーションを那須町の増田茂



ボランティアに取り組む学生

氏の協力を得て行った。十一月五日午後十時出発、十一月七日午後七時帰着。移動手段は「オールとちぎ」手配のバス。アジア学院のボランティアたちとの同乗。実質活動日は二日間。内容は、炊き出し等の手伝いのほか国際医療福祉大学独自の活動プログラム「ミニ喫茶」開店。一杯の温かいお茶に思いを込めた。この様子は、下野新聞にも大きく紹介された。参加者は現地組九名、残留組四名計十三名。準備期間十日もない中で、学生たちは、ほとんど寝る間もなく話し合いを重ねた。災害地にボランティアに行くということは、想像を超えて緊張感をもたらした。そのプレッシャーの中で準備は進められた。資金は、ボランティアグループ「かざはな」が自分たちの会費から助成してくれ、また国際医療福祉リハビリテーションセンターの職員からの支援金も得た。物資などはボランティアグループ「あじさい」や一般の方からも集まった。あくまで有志による活動ではあったが、実に多くの人の心が寄せられて実行できたものである。学生たちにとっても、学ぶことの多い、かけがえない体験であったと思う。

### 国際医療福祉病院

四月一日、平成十七年度栃木ブロック合同オリエンテーション開催

四月一日、平成十七年度新人職者の栃木ブロック合同オリエンテーションが、西那須野ブロック、大田原ブロックへ入職した一〇八名を対象に国際医療福祉病院で行われた。

オリエンテーションでは佐藤病院長、松田事務局長、香川看護部長等より、挨拶・訓示があり、社会人として、また医療人としての心構えや国際医療福祉大学グループの説明などが行われ、新入職者は皆メモを取りながら緊張した面持ちで真剣に聞き入っていた。その後、国際医療福祉大学へ移動し、国際医療福祉大学グループ入社式へ参加した。新入職者の皆さんは、少々不安な面持ちをのぞかせながらも期待と希望に満ちており、明日から医療人として頑張っていこうというフレッシュさが、私たちが在職者にも心地よく感じられた。「初心忘るべからず」(室町時代の能役者・能作者・世阿弥の『花鏡』にある言葉)をいつも忘れずにいたいものである。

国際医療福祉病院において初の臨床研修医二名研修開始！  
国際医療福祉病院は、臨床研修指定病院として指定を受けている。  
医師としての最初の二年間の初期臨床研修期間は「臨床研修医」と呼ばれる立場にあり、医師としての基礎を研修する

昭和四十三年のインターン制度廃止以来の医師法改正により、平成十六年四月一日から「新しい初期臨床研修制度」が開始されることになった。一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付けるために、二年間の研修期間中に内科系、外科、総合救急部、小児科、産婦人科、精神科、地域保健・医療等を研修することとなる。

#### 渡辺友弥先生



東京慈恵会医科大学卒

まだまだ未熟者ですがコメディカルの方々とお互いを尊重しあってよい研修生活を送りたいと思います。

#### 加持春菜先生



日本医科大学卒

国際医療福祉病院で臨床研修することで医師としてプライマリケアを実践できる医師になりたいと思います。

(国際医療福祉病院 総務課)





## 勉強するなら、「医療福祉チャンネル774」

医療福祉チャンネル774では、衛星放送スカイパーフェクTV! 774チャンネルで、医療・福祉・健康・介護に関する教育、教養、情報番組を放送!

### 国際医療福祉大学大学院乃木坂スクール

医療に関心があり、最近の医療事情を学びたい方のために、東京・乃木坂に開講した生涯学習コース「国際医療福祉大学大学院乃木坂スクール」を収録、6月より次の2コースを放送予定です。

#### 「精神療法セミナー」

前期全13回、講師：和田秀樹（国際医療福祉大学教授）他

精神療法はそれぞれの流派についてどのように学ぶべきか、精神科医や臨床心理士にとっても難しいのが現状です。精神療法について、1年間（前期・後期）で概括的に学べます。



和田秀樹氏（国際医療福祉大学教授）

#### 「自立支援のためのケアマネジメント」

全12回、講師：竹内孝仁（国際医療福祉大学大学院教授）

介護保険発足以来、要介護者が急増し、ケアマネジャーと介護の質の向上が強く求められています。18年度の介護保険見直しに向け、自立支援について根本から学べます。



竹内孝仁氏（国際医療福祉大学大学院教授）

### その他の番組

#### 介護福祉士受験講座2006

5月より開講の本編は、全科目とも重要過去問題を交え詳しく解説。理解度も増すこと間違いなしです。ツボを押さえた講義と講師陣執筆の『サブノート』の活用で、要点をすばやく理解できます。また、実技編では、映像の利点をフルに活用しています。竹内孝仁氏（国際医療福祉大学大学院教授）の特別講義「介護福祉士の心構え」も再放送中。



第16回試験問題模擬実技

#### 黒岩祐治のメディカルレポート

毎週日曜朝のフジテレビ「報道2001」キャスター黒岩祐治（国際医療福祉大学客員教授）が、現場直送のメディカルレポートをお届けします。患者・医療者の両者にとって真に理想の医療。その実現を阻んでいる現在の医療システムの問題点を現場取材するとともに、スタジオにゲストを招き、医療システム改革のためには何が必要なのかを考えます。5月は、「置き去りにされた患者たち・FOPって何?」「さまよえる医療難民・ALS患者の場合6」などを放送します。



黒岩祐治氏（国際医療福祉大学客員教授）  
森まどかアナウンサー（医療福祉チャンネル774）

#### 医療福祉チャンネルを見るには

「医療福祉チャンネル774」は衛星放送スカイパーフェクTV!の774チャンネルでご視聴いただけます。ご視聴には、スカイパーフェクTV!専用アンテナ&チューナーをお部屋のテレビにつなぐだけ!

視聴料・・・月額2,100円/法人契約：5,250円

（このほかに、スカイパーフェクTV!加入料・・・2,940円（初回のみ）・スカイパーフェクTV!月額基本料・・・410円がかかります。）

IUHW学生、マロニエ会会員、教育後援会会員の皆様は、特別視聴の制度があります。下記までお問合せ下さい。

#### 視聴に関するお問い合わせは

フリーダイヤル 0120-870-774（お客さま係） Eメール info@iryoufukushi.com ホームページ www.iryoufukushi.com

デザイン：アイ・デフト

発行：国際医療福祉大学  
編集部  
【東京】  
〒110-7006  
東京都港区南青山1-14-1  
アミティ乃木坂  
電話 03-3475-7710  
【大田区】  
〒324-8501  
栃木県大田原市北金丸2600-1  
国際医療福祉大学内  
電話 0287-243000



### IUHW 短信 平成17年度広報委員会委員決まる

IUHW Note

平成17年度の広報委員会の委員が下記のとおり決まった。

広報委員長 伊藤元信（常務理事）

広報委員 阿部智恵子（看護学科）堤かおり（看護学科）藤井菜穂子（理学療法学科）菅原洋子（作業療法学科）畦上恭彦（言語聴覚学科）藤田純子（視機能療法学科）菊地義信（放射線・情報科学科）宮地幸久（放射線・情報科学科）磯 伸彦（医療経営管理学科）永野なおみ（医療福祉学科）若倉 健（医療福祉学科）角南明彦（薬学科）千葉礼子（語学教育センター）田中 繁（大学院）柴田 滋（大川キャンパス・作業療法学科）高橋章子（本校総務課）井出貴広（本校入試課）原田千春（福岡・広報室）村田るり（東京事務所出版広報室）